

みつくら

平成30年 8月15日 第272号
 発行 大瀬川活性化会議
 編集 「みつくら」編集委員会
 花巻市石鳥谷町大瀬川10-45-2
 大瀬川振興センター 電話45-6472

“お～い!集まろう!創ろう!みんなの大瀬川!”

講座で「大瀬川と戦争」

第53回大瀬川歴史探訪講座は、辻村睦さんを講師に「大瀬川区長記録から知る戦争」をテーマに15名が参加して開かれた。大瀬川区長記録は、明治36年から残っていて代々8区長が持ち回りをしていたが、平成28年度から大瀬川振興センター資料室に保管している貴重な歴史資料でもある。今回の講座では、明治37年の日露戦争や大正4年の第一次世界大戦、昭和14年の第二次世界大戦、昭和16年に日本が参戦した太平洋戦争までを区長記録から拾い出して語りあった。参加者の中で唯一戦争体験者である菅原雄一さんから生々しい戦争体験もお聞きした。昭和15年の石油や砂糖の配給、軍用供出米の蔵検査、16年には大政翼賛会石鳥谷支部結成式、魚の配給、山祇神社での必勝祈願、17年は郷土の兵士に餅米3升5合ずつ送付、18年には金属類の供出、そして終戦の玉音放送などが話し合われた。次回は、8月27日で「戦没者を語る」で講師に板垣忠雄さんを予定している。

「大瀬川花菖蒲園」が今年も満開

大瀬川の尾平に自生するハナショウブ群落は今年も見事に満開で、見頃は6月28日から7月10日頃までであった。「残したい大瀬川の風景」の一つに数えられているこのハナショウブを保全するため、葛丸の農村環境を守る会では7月2日に草刈りや、雑木の除去を行った。葛丸の農村環境を守る会のハナショウブ保全活動は、今年4年目で5名が参加した。この草刈り保全の話を紫波町の友人に話したら「自生植物を守るには、そのままの状態が最も望まれ、草などを刈ると微妙に地面の湿度に影響を与えたりで姿を変えてしまうのでは？」とのこと。なるほどと思った。板垣幸夫さんはハナショウブの株数を数えたが、その数は有に1000株以上であった。今年の「大瀬川花菖蒲園」の写真は、高沢翔氏が撮影し、J Aいわて花巻の機関誌「ぼらーの花巻」7月号の裏表紙に大きく掲げられている。

土砂災害防止法について説明会

去る7月23日午後6時30分より7区自治公民館にて、土砂災害防止法に基づく基礎調査結果及び土砂災害警戒区域等の指定に係る説明会が県南広域振興局土木部花巻土木センター治山環境課より3名、花巻市より2名、を含め対象となる地権者18名が参加して開催された。この説明会は、基礎調査結果の地図が出され、溪流名「新山の沢2」が土石流の恐れがあるとのことで、住民を集めての説明会は石鳥谷町内では初めてとなった。近年、どこで局所豪雨災害が起こるかわからない状態となっており、ハード面での砂防ダム等の工事には時間がかかるので、まずはソフト面で土砂災害の危険性区域を明らかにし、区域指定（特別警戒区域・警戒区域）を行い、同時に警戒避難体制の整備を推進することで、災害時への対応となると話があった。なお、現在花巻市ではこの地区の世帯には防災ラジオを提供している。

市政懇談会で地域の課題を討議

平成30年度の市政懇談会が7月10日に大瀬川振興センターで市側から9名、地域民18名が出席して開催された。9区の熊谷惇区長さんの進行で、佐々木忍副市長より花巻市の現状の説明を兼ねた挨拶の中で「平成18年の合併の時には10万6千人あった人口が今は9万7千人減少したが世帯数は増増している事、北上北部工業団地での東芝の工場増設で増える物流を見込み花巻サービスエリアのスマートインター化を要望していると話した。また花巻駅を橋上化して駅西口への利便性を図る事」などが話された。つづいて、地域から提記された二つの話題についての懇談を行なった。一番目のひとり暮らしの高齢者が安心して暮らせる取り組みについては、民生児童委員が把握している要支援者の個人情報がいざと言う時に障害になるのでどうすれば良いのか、また、自家用車が無い人の買い物や病院への通院の支援は白タク行為にならないのかとの意見が出て、市側からは「非常時は臨機応変対応してほしい、また、乗り合いタクシーも当日の予約もでき、前よりも利用しやすくしている」と答弁があり、「運転者は買い物支援（付き添い）などをすれば制度上白タク行為にはならない」と回答もあった。二番目の介護予防と日常生活支援事業については「どんな些細な事でもまずは社会福祉協議会の地域包括センターに直ぐに相談してほしい。大事になってからでは遅いので近所の人でも少し変だなと思ったら相談する事で未然に防止したい」と解答があった。その他では、「振興センターへの交付金を見直して活発に事業をしている所へは多く支給して貰いたい」「最近の異常気象で想定外の被害が出ており、防災についても現在よりも広域での訓練が必要ではないか」「青雲高校の入り口から高橋義晃さん宅までの500メートルに防犯灯が無くて通学している人は不安を感じている」などの意見が出た。

基盤整備全体説明会が行われる

大瀬川地区基盤整備事業推進委員会（菅原教雄委員長）では、7月18日に2回目の全体説明会を対象者（地権者含む）213名に対し78名（耕作者の約8割）が参加して大瀬川振興センターで行った。山王海土地改良区から4名が出席されて今後の計画の説明があり、大瀬川地区としても基盤整備対象者の100パーセントの調査同意を頂き進めて行きたいと8月上旬の回収をお願いし、調査同意書を配布した。今後は、調査同意書を回収後、山王海土地改良区・花巻市・北上農村整備センター等を経由して、岩手県に地区営農ビジョンとともに送られ、県内の基盤整備地区との審査が行われる。

8区農家組合は大槌町で研修

8区農家組合、8区自治公民館、8区自主防災会共催の移動研修会は、7月8日に来賓も含め48名が参加して大槌町で行われ、東日本大震災の復興を研修した。板垣幸夫組合長は「当組合の最も大きな事業であるこの研修会にバスが満席になるほどの参加をいただき感謝しています。秋の農業まつり（J Aいわて花巻）には、釜焚き名人が当たっていますので、特に婦人部の方々にご協力をお願いします」と挨拶された。来賓の熊谷正克農協理事の祝辞や、菊池健石鳥谷支店営農課長の農協事業説明に続いて、熊谷秀夫大瀬川地区基盤整備推進委副委員長から「大瀬川地区基盤整備事業は、来年度測量調査の採択をいただけるよう、土地関係者の同意を取りまとめることとしております。それらの説明会は7月18日に大瀬川振興センターで行いますので出席をお願いします」と話された。研修は他に大槌町の「母ちゃんだあすこ沿岸店」でJ A花巻関連の復旧状況を見学し、その中では「震災で大槌支店と鶴住居支店は全壊し、釜石支店は浸水被害で、職員6名が死亡、いまだに1名が行方不明となっている。支店建物の被害だけでも1億8百万円に及んだ」とのことであった。

運営委員会が公葬地を清掃

お盆に向けて、清々しい気持ちでお墓参りが出来るよう大瀬川公葬地管理運営委員会では、8月1日に14名が参加して、周辺の落ち葉などの清掃や、合籠屋（がんごや）の掃除、葬具の整理、駐車場の排水溝点検などを行った。終了後に板垣弘清委員長は「朝6時の早朝にも拘わらず、皆さんのご協力でこのように綺麗にして頂きました」と感謝の意を述べられた。公葬地の駐車場排水溝は塩ビパイプのため、目詰まりで機能が果たせないのが今年度中にU字溝に変更する予定となっている。

みつくら

平成30年 8月15日 第272号
 発行 大瀬川活性化会議
 編集 「みつくら」編集委員会
 花巻市石鳥谷町大瀬川10-45-2
 大瀬川振興センター 電話45-6472

“お〜い!集まろう!創ろう!みんなの大瀬川!”

早池峰ダムで親子環境学習会

葛丸の農村環境を守る会と大瀬川子供育成会主催の親子環境学習会は、7月15日に早池峰ダムと白崖（葛丸川）で準備した方も含め62名が参加して開かれた。

玉山敦大瀬川子供育成会会長は出発前に「今日は、守る会のお世話になって、早池峰ダムの見学と、白崖の見学、さらに葛丸川にイワナの放流を体験します。怪我をしないよう注意して下さい」と挨拶された。

学習会は、菊池孝花巻土木センター治水環境課長と藤原道理同総括主査の案内で早池峰ダムを見学した。説明によると早池峰ダムは、治山と用水、発電を目的に平成12年に完工したが、建設の発端は、昭和22年のカスリン台風で死者1名、流出家屋18戸、浸水農地230町歩、被害総額30億円、さらに翌年の昭和23年にアイオン台風により甚大な被害を受けたのがきっかけだった。めったに入る事が出来ない堰堤の地下道（監査廊）や、展示館も見学出来た。

一行はその後、葛丸川の白崖に戻り、その由来について学んだ。白崖は、葛丸渓流地域で白粘土層が最も厚い層はここだけで、さらに葛丸川の底面に、造山時代の地層が現れているのもここだけなのも地質的に貴重な事であり、大瀬川ならではと言われている。

その後、白崖付近の葛丸川で、参加した児童全員がイワナの放流を体験した。

安全協会研修旅行

交通安全協会大瀬川分会（板垣吉彦会長）では、去る8月5日に22名が参加して大船渡温泉で研修した。

到着後板垣分会長から夏の交通事故防止県民運動実施要領・夏休み中の子供の交通事故防止についての講話の後、前分会長の菅原教雄さんの乾杯で2時間の呑み放題で飲んで・食べて懇親を深めた。

ちなみに、大船渡温泉は大瀬川第一老人クラブが6月末に移動研修の場所として一泊で利用していた。

潤いの雨の中で第7回賢治やまなし祭

去る8月5日、石鳥谷賢治の会主催の第7回賢治やまなし祭が、雨天の為会場を大瀬川振興センターに移して開催された。7月10日以来の本格的な雨は農作物には恵みの雨となった。

当日は関係者を含めて35名が参加。「やまなし」について様々な催しを行う中で、花巻市生涯学習部長の市川清志（花巻市長代理）さんが「自宅の近くを流れている鍋割川で沢ガニを見た時は非常に驚いた。カニは海にいるものと思っていた。この状況を賢治さんは童話にし、今は小学校の国語の教材になっている事は花巻人として誇らしい」と話された。

また、大瀬川活性化会議の熊谷会長からは「ゆかりの地として交流人口を増やして地域の活性化につなげて行きたい。あいにくの雨ですが農家には嬉しい雨です。是非大瀬川は良い所だとPRをお願いします」と話された。童話『やまなし』の朗読は石鳥谷小学校6年生の高橋佳汰さん（桶屋ド）が初めて男子として朗読した。つづいて、石鳥谷の「やまなし」に非常に詳しい小原正道さんの講話があり、「エコーくずまる」の皆さんが『やまなし讃歌』『夏の思い出』の2曲を歌った。

最後の所感で、共催でもある東京賢治シューターナー学校の竹内明美さんが「平成23年の東北大地震の年の植樹から8年もの間、賢治のゆかりの地やまなし園との縁に感謝したい。また同時代に生きた賢治とシューターナーは同じ考えでいたことを私達は子供達と一緒に実践している」と話された。参加者には去年11月に仕込んだ「やまなし酒」をお土産として配った。

また、花巻市の広報を見て参加した人達から、是非とも現地が見たいとの希望があり、雨の中を案内した。

東和で大瀬川中央長寿会が夏期移動研修

大瀬川中央長寿会（菅原靖夫会長）では、7月30日に16名が参加して、東和町方面で恒例の夏期移動研修を行なった。

研修先は東和町の谷内地区にある旧小原家住宅で、昭和44年に国の重要文化財に指定された。この萱葺きの曲がり屋は江戸時代の中頃に建てられ、当時としては標準的な民家の様で、馬屋部分を後で増築された経緯が分かり易い事が指定の理由になった。当日は、前に住んでいた小原忠八さんから詳しい説明をして頂いた。外は30度を超えているのに、中は26度で非常に涼しかった。参加者は、大瀬川でも昭和30年代・40年代ごろまで普通に有った萱葺きの家で「これも有ったな、これも使ってたなあ」などと話をしながら見て廻った。

懇親会場の東和温泉では、最長老の熊谷定人さんの音頭で乾杯をして懇親会を始めた。その後、思い思いに入浴をしたり昼寝をしたりとゆったりと過ごし、30度を超える大瀬川に戻った。

人 事（敬称略）

花巻市農業委員会農地利用最適化推進委員 菅原清昇
 （8月1日から任期3年）

7区農家組合研修に24名

7区農家組合の移動研修会は、7月1日に新鉛温泉の愛隣館で24名が参加して行われた。畠山義弘組合長は「お忙しい中、来賓をはじめ、多くの組合員に参加して頂きまして有り難うございました。今日は研修と共に、農作業で疲れた身体を休めて、さなぶり気分できつろいで下さい」と挨拶された。

講師のJAいわて花巻石鳥谷支店の杉澤共済課長から、農協事業について「第20回JAいわて花巻の通常総会は5月25日に989名の内、本人出席657名、書面出席273名の合わせて930名で行われました。農協事業は3月1日から翌年の2月28日までですが、平成29事業年度に於いては、6億8千万円の剰余金となり、組合員の皆さんへ出資配当も（1%）出来ました。皆さんの協力に感謝します」。

佐々木菅農担当（石鳥谷支店）からは「米200万袋の目標に届かず82%にとどまりました。今年7区の米出荷量の目標は6350袋です。是非達成をお願いしたい」。

また、菅原教雄大瀬川地区基盤整備事業推進委員長からは、今までの経過と今後の予定が説明された。

7区農家組合は、農協が出来る前の石鳥谷農業会設立時の昭和21年に7区農区団が始まりで、昭和23年の石鳥谷町農協発足でも7区農区団を名乗り、昭和28からは7区部落委員会、昭和31年から7区農事実行組合、昭和60年から現在名の7区農家組合となっている。

「エコーくずまる」が美声で歓迎

去る7月24日葛丸湖畔にある宮澤賢治歌碑へ東山町にある「石と賢治のミュージアム」主催事業で39名が訪れた。皆さんは「第19回グスコブドリの大学校」の方々で、関東圏を中心に、遠くは新潟県の人参加するなど、11都県から参加している人気の大学校である。

今回は、2泊3日の日程で賢治さんのゆかりの地を巡っており、前日は大沢温泉に宿泊している。

一行は、イーハトーブセンター理事で「石鳥谷賢治の会」の2名の案内でタロシ滝に立ち寄り、10時40分に歌碑に到着した。

到着後、板垣寛さんが、平成6年の歌碑の建立までの経緯や、賢治さんの弟で故宮澤清六さんとの約束で、毎年『賢治葛丸祭』を行なっていることなどを話された。

その後、この大学校の閉講式を歌碑前の広場で行なった。続いて、「エコーくずまる」の代表熊谷幸子さん他4名が『あやしきものにかこまれてたつ』の詩にメロディーを付けて歌った。

最後は、大学校の参加者である早川さんのコカリナの伴奏で『くずまる讃歌』を歌い、みんなで歌碑を囲んで記念撮影をした。

カメラの数が多くて、何度もカメラを取換えては撮影し、大学校の全日程を修了した。